



10代が描く 唐津のみらい



Teens KARATSU Project 2030



佐賀県唐津市



10代が描く 唐津のみらい

Teens KARATSU Project 2030

このプロジェクトは、唐津市の中高生が考えた都市計画マスタープランの副読本です。市の特命スタッフ募集に、27名の中高生が応じてくれました。全員で市内を見学後、中高生一人ひとりにもっとも興味のあるテーマを出してもらい、A班・まちなか、B班・みなと、C班・虹の松原、D班・海のまち、E班・山里の5班にわかれて、取材・執筆を行いました。中高生たちがふれなかった地域もありますが、趣旨をご理解いただき、ご覧ください。

佐賀県唐津市

10代の夢みる 唐津の未来づくり

唐津市長 坂井 俊之

15歳の頃、私はパイロットになることを夢見ていました。パイロットの仕事は、皆さんご存じのとおり、その日の気象条件などを熟知し、経験と知識を活かし、卓越した操縦技術でお客さまに安全で快適な旅を提供するという正にプロ中のプロの仕事であり、至高のサービスマンであると思います。このような仕事に就きたいと夢見ながら、青春時代を送っていました。

いま振り返ってみると、好奇心旺盛な私は、地球儀や地図では当たり前のことですが、唐津もアジア諸国もニューヨークもロンドンも、簡単に言えば「空」でつながっているということを実感したかったのだと思います。また、自分の住んでいるまちには何があるのか、その先にある世界がどうなっているのか、

正に空を飛ぶ鳥のように眺めたかったのかもかもしれません。

プロへの道はとても険しく、パイロットにはなれませんでした。大人になり、東京や海外に出て、なんとか人生の岐路に立ち、挫折も経験しましたが、以後、ホテルマン、国會議員秘書、県議會議員、現在は唐津市長として、市民やお客さまに対して「最高のサービスの提供」ということでは、昔も今も夢はつながっていると実感しています。

まちづくりは、地図を描くことに似ていると思います。未だ誰も描ききれていないけど、誰もがもつ「こんなまちにしたい」「こんなまちに住みたい」「ここでこんな人たちと過ごしたい」という想いや夢。まちの将来像を

描き、それを現実（カタチ）にするには、時間というキャンバスに、まちづくりに必要な「もの」、「こと」、「ひと」を一つひとつ描いていく作業、つまり地図づくりが必要になると思います。

都市計画は、まちの将来像を描き、交通や景観、施設の配置などを計画的に進めていくための、正にまちづくりの地図だといえます。先の見えにくい今の時代にあつては、これまですのように「計画」を策定して、その大きな方向に沿ってまちづくりを進めることだけではうまくいかないと思います。つまり、夢を現実（カタチ）にする主人公が必要です。夢を語り、夢に向かって行動しなければ、まちづくりは動き出さないと私は思います。まちづくりが多様であるように、主人公も実に多様です。主人公は市民の皆さんです。市民の皆さんが地図で描かれているものが見えなければ、歩む方向も、道も、やることもわからないでしょう。

今回、20年後の唐津の将来像を描いた「唐津市都市計画マスタープラン」を策定しました。プランの中では「市民協働」という言葉が多く使われています。市民の皆さんと一緒にまちづくりを進めていくための地図となるものです。

この本は、市民の皆さんに、わかりやすくまちの将来像を伝えるため制作されました。唐津の20年後を担う中学生・高校生が、都市計画マスタープランを手がかりに、正に空を飛ぶ鳥のように、このまちの未来を眺め、夢ある将来像を描いています。

市民の皆さんが、一つひとつの10代の夢に共感し共鳴しあえば、まちづくりの物語をつむぎだす話の主人公として動き出すことになるでしょう。

この本で語られる夢を現実（カタチ）にするために。



15歳の頃。妹を抱いて



48歳になった唐津市長

天山

海から唐津を見る

唐津は地名からもわかるように「唐（中国、韓国）へ向かう津（みなと）」でした。海から入ると、玄界灘の島々、入り組んだ海岸線、曲線を描く虹の松原、風景を引き締める唐津城など、近づくにつれてまちの姿が見えてきます。ここに中高生の考えた「虹の松原」、「まちなか」、「みなと」、「海のまち」の主な提案を入れて、描いてみました。

まちなかのリヤカー屋台と休憩所



バスセンター
唐津駅

旧唐津銀行

鏡山

虹の松原



虹の松原を白砂青松に

唐津城

旧高取邸

火力発電所



佐志浜埋立地の水族館と商業施設



佐志浜埋立地

呼子朝市

名護屋城跡

馬渡島

加部島

七ツ釜

離島をめぐる船の店



小川島

加唐島

松島

神集島

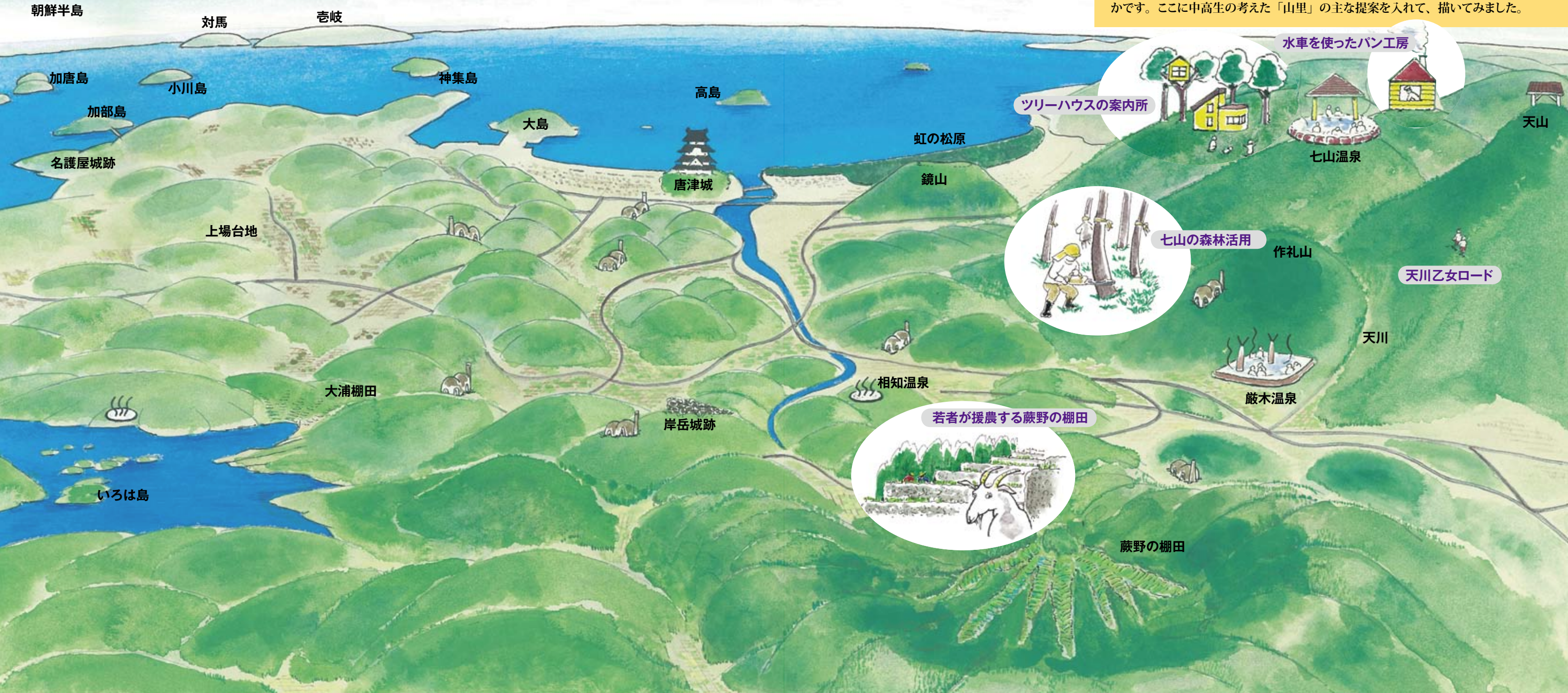
大島

鳥島

高島

山から唐津を見る

唐津は海を通じて世界に開かれるとともに、山々によって人びとの生活が守られています。七山・厳木の森と清流、蔵野の棚田とその石積み、北波多の茶畑などは代表的な風景です。海と山に挟まれた唐津は、両方の恵みがきわめて豊かです。ここに中高生の考えた「山里」の主な提案を入れて、描いてみました。



10代の夢みる唐津の未来づくり 坂井唐津市長……………02
海から唐津を見る／山から唐津を見る……………04

まちなか●A班

未来に残したい唐津の風景①……………10
今、計画中のバスセンター5つの秘策 宮崎研史郎……………12
旧唐津銀行発、コミュニティ着 山口舞……………14
商店街にしかできないこと 福井彩乃……………16
みんなでつくった旧高取邸 松本七海……………18
町並みから「におう」唐津 森田漠……………20
取材で出会った人びとA班……………22

みなと●B班

未来に残したい唐津の風景②……………24
唐津港を再び「唐への津」へ 田元碧樹……………26
唐津の姉妹都市とその未来 谷口真彩……………28
海の未来はあなたにかかっている！ 國分紗也加……………30
火力発電所を緑のシンボルに 佐藤史菜……………32
佐志親水コミュニティゾーン 甲斐千裕……………34
取材で出会った人びとB班……………36

虹の松原●C班

未来に残したい唐津の風景③……………38
防備林として植林された虹の松原 草場勇太……………40
虹の松原「七不思議」 森本佳樹……………42
虹の松原の危機 橋本大志……………44
世界の MATSUBARA 小野尾優士……………46
虹の松原の未来を考える 新開秀貴……………48

虹の松原の三大銘菓 野崎雷太……………50
取材で出会った人びとC班……………52

海のまち●D班

未来に残したい唐津の風景④……………54
呼子改造プロジェクト 栗山友里……………56
海のまちで見つけたもの 山下未裕……………58
朝鮮半島との交流 吉村早織……………60
「Dr.コトー来て〜」島の医療について 古川直希……………62
私と島の人の暮らし 山本利海……………64
取材で出会った人びとD班……………66

山里●E班

未来に残したい唐津の風景⑤……………68
七山完全復活！ 吉岡和起……………70
七山のふれあいパン工房 脇山咲……………72
丸一日、七山の木で遊ぶ 山口麗菜……………74
日本一の棚田をキャラで進め食“ 宇治川深雪……………76
化粧品ブランド「山守」を世界へ 吉岡美湖……………78
天川幸せめぐり乙女ロードの提案 本庄望……………80
取材で出会った人びとE班……………82

どう活かす、10代の提案 唐津市へのQ&A……………83
未来に残したい唐津の風景⑥……………88
編集室の7日間……………90
特命スタッフ紹介……………92
Teens KARATSU 2030のプロジェクトを終えて
卯月盛夫……………94

唐津市都市計画マスタープランでは、まちなか（中心市街地）の再開発事業を行い、旧高取邸、唐津焼、唐津くんち、浜崎祇園などの貴重な歴史・文化の資源を活用して「唐津の顔」をつくり、中心部のにぎわいを回復させるまちなか居住や海外との観光交流を推進して、活気のある魅力的なまちなかを目指しています。

これらの都市計画マスタープランを受けて中高生たちは、まちなか再生の起爆剤と考えている「旧まいづる百貨店・バスセンター再開発事業」のあり方を、「5つの秘策」として提案しました。また現在整備中の旧唐津銀行を、観光交流だけでなく、まちなかに住む人たちの拠点として使えるようにしつつ歩行者空間をつくるアイディアもあります。さらに、商店街休憩所のアイディアや旧高取邸の利用方法、唐津の古い町並みなどの歴史・文化資源を来訪者にPRするとともに、市民のアイデンティティとして、守りながら活用する提案がされています。





写真提供／佐賀県観光連盟



まちなかを歩けば、城下町の風情が残る石垣や松。海に突き出た半島の上に颯爽とした姿で立つ唐津城。秋には江戸時代から継承された曳山が街路を練り歩き、唐津っ子の元気な掛け声が空に響き渡る。



バスセンターの歴史と未来

2010年1月まで使っていたバスセンターは1933年（昭和8）、大手ビル百貨店として、建設されました。1957年（昭和32）には「まいづる百貨店」と名前を変えました。まいづるグループ社長の木下修一さんのお話によると「唐津で1軒しかない百貨店だったのでお客さんがたくさん来ました」とのことです。1979年（昭和54）にバスセンターが併設されましたが、世の中が車社会になるにしたがってお客さんが来なくなり、2000年に百貨店が閉店しました。

現在、百貨店ビルおよび隣接のバスセンタービルを解体し、2011年秋頃に完成予定であるバスセンタービルは、地上6階の建物です。敷地面積は2401平方メートルで、構造は鉄骨造です。その新しく建設されるビルは、1階にバスセンターや飲食店など入ります。2階は商業系の一般テナント、3階は市民交流プラザ（NPO、子育て支援情報センターなど）、4階は事



取り壊される前のバスセンター



昭和初期に竣工した大手ビル百貨店

務所系の一般テナント、5・6階は市役所の事務所になる予定です。

そこで私は、このバスセンターをより多くの人に利用してもらうため、5つの秘策を考えました。

秘策①人の「流れ」をつくる

1つ目の秘策は、電車で唐津に来たお客さんが、駅から歩いて商店街に南側から入り、品物を見ながらバスセンターへ行くという、人の流れをつくる秘策です。今の商店街はシャッターの閉まっている店舗が目につきます。そこに店を入れて人の流れをつくることにより、たくさんの人が集まりやすくなるように、人が集まります。

そしてイベントを行えばもっと人が集まります。このように中心市街地が活性化することにより唐津市全体が活性化すると思います。

秘策②心の豊かさ

2つ目は、お年寄りがバスセンターの近くのお店や、バスセンターで買った品物を家に届けるという制度です。さらに、バスセンターで買った品物は無料で運びます。

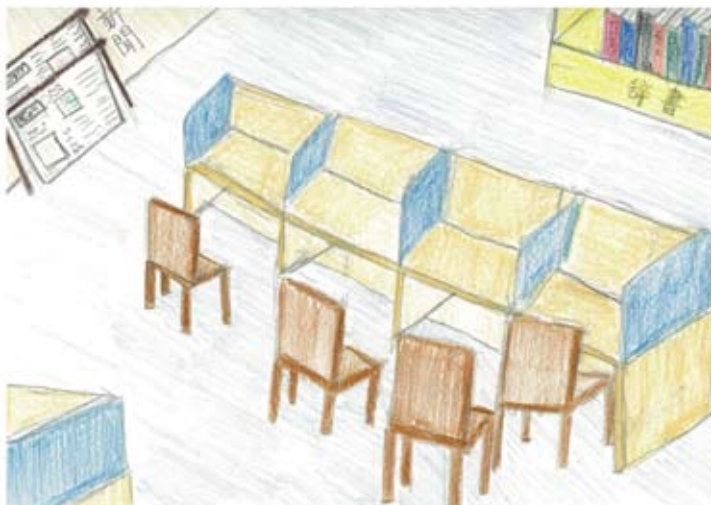
まいづるグループ社長の木下さんは「今は物があふれている。次は心の豊かさが必要」とおっしゃっていました。この制度は、まさに「心豊か」な行動と言えます。この制度によって、帰りの荷物を気にせずに、たくさん買えるようになります。

秘策③唐津市の学力の向上

3つ目は、バスセンターに自習室をつくることです。バスセンターは多くの学生が利用すると思われる。だからその待ち時間にちょっと自習室を使



再開発ビル完成イメージ図（2011年完成予定） 周辺の道路は未定部分がある



バスセンターの中につくる自習室のイメージ（イラスト／宮崎研史郎）

うことによって、唐津市の学力の向上にもつながると思います。また講師をつけることができれば、もっと学力が向上すると思います。

秘策④雨でも遊べる空間

4つ目は、バスセンターに児童館をつくることです。公園などは雨が降っていたら行くことができません。だからいつでも親子で楽しめ、遊べる空間が必要なのでつくりたい。そうすれば、

幅広い年代の人たちにバスセンターを使ってもらえ、幅広い年代の人たちや、親と子が仲良くなれると思います。そして唐津の中心市街地の快適さがアップするでしょう。

秘策⑤専用の観光窓口

5つ目は、バスセンターに唐津の観光案内をする窓口をつくることです。観光するにもやはり幅広い年代の人がバスセンターを訪れると思います。だ

から窓口は、若い人・お年寄・家族の専用の窓口をつくり、その対象にあった観光案内を説明します。このことにより年齢が制限されず、多くの観光客が訪れると思います。

自分たちの町は自分たちでつくる

この5つの秘策を使って、中心市街地（バスセンター）を活性化させ、バス、電車を有効利用すること、そして広い世代が利用できるようにすること、観光をより輝かせること、20年後そのような役割ができるようなバスセンターになっていればいいと思いました。そして、これからその役割を果たすには、ぼくたち市民も考えなければならぬと思います。

旧唐津銀行発、 コミュニティー着

山口 舞

Teens KARATSU♥A 班



旧唐津銀行を建てた頃

旧唐津銀行は1912年（明治45）に唐津銀行として建築された、地下1階地上2階のレンガ造りの建造物です。この建造物は唐津出身で東京駅などを設計した明治を代表する建築家の辰野金吾が監修、その愛弟子であった田中実の設計です。

唐津銀行として営業していた頃、周辺には他に4つの銀行もあって旧唐津銀行の目の前の通りはメインストリートとして、とても人や車の通行量が多く、にぎわっていました。

現在は昔に比べると人通りも少なくなり、活気がなくなりました。そのこ

ともあってか、旧唐津銀行の近所に住む正田俊輔さんは「人付き合いや、つながりが薄れてきた」と言っていました。では唐津銀行として営業されていた頃のような活気を取り戻すためにはどうすればいいのでしょうか。

自由に歩ける空間と交流スペース

私は歩行者が車を気にせずに自由に歩いたり散策できる空間を、旧唐津銀行を拠点としてつくつたらいいと思いました。銀行に荷物を置いて楽な感じで町を歩けるようにもします。

この歩行者空間で使えるポイントカードをつくって、旧唐津銀行には明治時代にあった窓口が復元されたのでそこを利用し、貯まったポイントをプレゼントに交換する場所にします。

そして旧唐津銀行の横には駐車場をつくるのではなくて、地元の人たち同士や地元の人と観光客の人たちが交流できるようなスペースにして、いろいろな人たちとふれ合えるようにしま



2011年春オープンに向けてリニューアル中の旧唐津銀行



ポイントの交換窓口に活用したい明治時代のカウンター

す。このスペースはテントを張り、テーブルと椅子を置いて自由に使えるようにします。

銀行の建物にふれあえる交流スペースをつくることで、ちよつと行ってみようと思う人が増えて、町に活気も戻ってくると思います。

私が考える散策空間

散策空間は、アーケードを含んだ市街地の中心を1時から17時までと時間を決めて車両通行止めにして、車など危険なものを気にしないで自由に歩いても大丈夫な空間にしたいと考えました。そこには現在あるお店の他に、今後つくつたらいいなと思う、ぶらっと立ち寄れて食べたり、民芸品などを見学できるお店もあります。

オープンカフェのテラスのような休憩をする場所も何カ所があります。ここでは散策ルートで歩き疲れた人がいたり、話し相手を求めて来て、話をしている人がいると思います。また、商

店街にいる話がおもしろい人、もの知んな人が紹介してあるマップが置いてあって、それを見てお店に行くと、いろいろな話しかけるといふ風になっています。

リヤカー部隊の復活

町に活気があふれている頃は中町の

通りには、リヤカーで生産者の人が直接売りに来ていたそうですが、徐々にその姿も見られなくなってきました。そのリヤカー部隊が昔のような感じで営業する場所にしたいと思っています。まったく新しい感じの10代の女の子たち向けのリヤカー部隊があったり、多様な感じで復活します。そこでは呼子の朝市のようにお店の人とお客さんと



自由に散策できる中心市街地の範囲

昭和30年頃の唐津銀行前のメインストリート(写真/『ふるさとの想い出写真集 明治大正昭和 唐津』(発行/国書刊行会)より)

- 旧唐津銀行
 - お店
 - おもしろい人
 - リヤカーのお店
 - 休憩所
 - 歩行者空間
- 11:00～17:00 車両通行止め



10代の女の子向けのかわいいスイーツのリヤカー屋台(イラスト/山口舞)

の会話が絶えずあって活気があります。

大手口の近くの病院に行ったお年寄りの人たちが病院帰りに野菜などを買ったり、主婦の人たちが晩ご飯の食材を買いに來たり、中高生が学校帰りにお腹がすいたからパンを買おうと思つて來たり、子どもたちがおやつを買いに來たり、とてもたくさんの方がリヤカーのお店に來るでしょう。

お年寄りがこの散策空間の端から端まで行くのには、やはり疲れてしまうと思います。ですから、その空間のただけを走っている自転車タクシーもあります。

この散策空間をつくることでたくさんの方ががまちなかに興味をもつてくれ、アーケードの中などが人であふれて活気が戻つてくれると思います。そして、この空間に住む人たちも旧唐津銀行という歴史ある建物を拠点として、絆が深まるのではないのでしょうか。こういう利点がたくさんあるので、この提案が実現したら、昔以上の活気があふれると思います。



▲ 1963 年 (昭和 38) ころの呉服町アーケード (写真 / 『ふるさとの思い出写真集 明治大正昭和 唐津』 (発行 / 国書刊行会) より)
 ▲ 20 年前に改修された現在の呉服町アーケード



中町商店街にある元病院の建物

最初、商店街はさびれて寂しいところだと思っていました。しかしそれは違いました。なぜかという、商店街ではスーパーにはない人のあたたかさを感じたからです。

スーパーの買い物はただ買うだけだけど、商店街はただ歩くだけでも、あたたかい雰囲気、人との交流を感じました。京町商店街の中にある山内薬局の吉富寛さんは、「商店街を利用している周りのみなさんの信頼があるからこそ、この商店街は生きている」と言っていて、その「信頼がある」ということが、あたたかい雰囲気につながっているんだなと思いました。

なぜ若い人が来ないのか？

商店街に 10 ～ 30 代ぐらいの若い人がなかなか来ない理由は、まず若い人たちの好きそうなものが売ってないということです。

お店をじっくり見れば、いくつか若い人が好みそうなものが置いてある時もあります。が、やっぱり第一の原因は、若い人が好む物が少ないということだと思います。ところが、今の商店街は後継者がいないお店が多く、50 代以降の人が営んでいる状況です。

ですからお店の人は若い人たちがほしいと思っているものが、わからないのではないかと考えます。そこで若い人のほしいものがなにかわかるように、目安箱のようなものを休憩所やお店などに置き、リクエストをしてもらえばいいと思いました。

現在の商店街休憩所の問題

商店街を歩いている人に「休憩所は使っていますか」と聞くと、「あまり使っていない」と言いました。京町商店街にも休憩所がありますが「もう少しお年寄りにも入りやすい休憩所がほしい」とその人は言っていました。私はその休憩所がガラス張りでありにも見通しがよくて、通行人に見られている感じがあって休めなれないと思いました。それと、コンクリートの壁にあたたかみがないのが、もうひとつの休まらない理由です。

商店街に休憩所をつくるのだったら、パンフレット置き場をつくって、観光客が気軽に寄れるようなところにしたり、お茶の無料サービスやお年寄りも使いやすいトイレなどがあると思います。

みんなが集まる場にする

唐津の町の活性化を目指している、いきいき唐津株式会社森正俊さんは、中町にある元病院だった木造の建物を、ブックカフェにしたいと言っていました。そのカフェに置く本は、唐津に関する歴史の本や小さい子向けの絵本、小説などです。

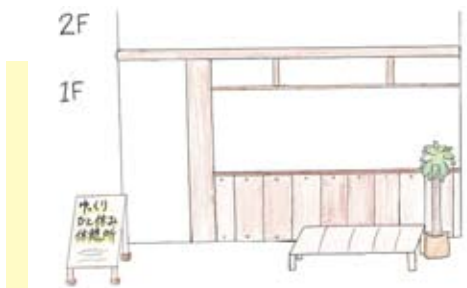
唐津に関する本は、観光客が利用したりできるのでいいのですが、小説や絵本ばかりだと若い年代の人たちは利用しにくいと思いました。雑誌やまんが、ケータイ小説など若い人が好きそうな本も置いてほしいです。そうすれば、若い人が少ない商店街にも私たちの年代の人も集まってくると思います。

唐津市民を増やすためには

最近唐津に住み始めた木本聖さんに、唐津の最初のイメージを聞くと「パツとしない田舎」と言います。ところが「今はすごく住みやすい」と。さらに唐津の短所と長所を聞くと、「大きな買い物ができない。交通が不便。だから、福岡などに買い物に行ってしまう」。しかし「唐津は、海のイベントが多いし、いろいろな自然がたくさんあって楽しいところもあるし、都心と違って心が休まる」と言いました。つまり木本さんは、唐津はリラックスできるし、リフレッシュしやすいと思っているのです。私も福岡へ行くと、楽しいけれど疲れてしまいます。そして唐津に戻ると、ホッとします。

唐津は都会より空気がのんびりとしていて、おだやかです。その上、たくさん歴史や文化があるし、とてもいいところです。都会などに住んでいる今の 10 ～ 30 代の若い人たちは、都会が一番だと思っている人が多いと思います。だけど、田舎に一度でもいいから行ってみたいのです。行ってみれば、田舎のよさがわかると思います。例えば、唐津にはきれいで美しい自然があるし、気持ちのあたたかい人たちもいるし、海や川も近く、山でキャンプもできるという、都会にはない田舎のよさがたくさんあります。

唐津のよいところを知り、多くの人が来れば自然に町もにぎわいます。そうしたことが商店街の活性化につながるのではないかと思います。



- ◎全体的に木を使ってつくる
- ◎中に入るほどでもない人のために外にもベンチ
- ◎アーケードの外からベンチが陰になるように木を置く
- ◎上の看板だけではなく、外に大きな看板
- ◎トイレはお年寄りの手すり設置
- ◎トイレの入り口とゴミ箱を隠すために間に木を置く
- ◎自販機を設置する
- ◎無料のお茶などを出入り口付近にしたのは、奥に置いておくとうわりづらいから
- ◎テレビを置く (DVD を流すだけでなく、テレビ番組が見られるもの)
- ◎休憩所の中はできるだけシンプルにしておく

休みやすい休憩所の提案
 (イラスト / 福井彩乃)





Teens KARATSU♥A 班



旧高取邸の外観

いました。だけとおかみさんの話を聞いてこの考え方は違うんだと思いました。旧高取邸の高取さんはひとりで成功したのではなくて、石炭を掘った唐津の人たちと高取さんが一緒に働いていた事実を残さなきゃいけないと思います。旧高取邸は高取さんひとりでつくった建物じゃない、みんなが炭鉱などで働いて唐津が栄えてできた建物です。みんなで作ったものだから、みんなで残さなくてはいけないと思いました。

みんなの旧高取邸にするには

私は、「みんなの旧高取邸」にするには、旧高取邸を保存しつつ市民がもっと活用をすればいいと思います。

旧高取邸は杵島炭鉱などの炭鉱王として知られる高取伊好の邸宅です。約2300坪の広大な敷地に、大きく2棟の建物が建っています。1998年（平成10）12月に旧高取邸は国の重要文化財の指定を受けました。

私は実際に旧高取邸を見学して、杉戸絵、欄間などの意匠にも見どころがあると思います。

洋々閣のおかみさんのお話

私は旅館洋々閣のおかみさん大河内はるみさんに取材をしました。1998年におかみさんは「高取邸を考える会」を立ち上げました。この会員数は100人程で、運動内容は旧高取邸を



旧高取邸のワイン貯蔵庫で熟成させたプレミアムワインで乾杯（イラスト／松本七海）

活用案①旧高取邸ウエディング

例えば洋間で結婚式をあげるとか。もし能舞台が使えれば、能舞台では着物で、洋間はウエディングドレスを着るとか。歴史のあるところで結婚式ができれば、新郎新婦もきつとしあわせになれると思います。その夫婦に子どもができれば、「お母さんたちは、高取邸で結婚式をあげたんだよー」っていう話をして、その子どもたちを連れて旧高取邸に行ってくれたらいいなあと思います。その子どもたちもそれを



能舞台では和装ウエディングやプチコンサートを実現させたい

ひきついで、旧高取邸で結婚式をあげてほしいです。

活用案②旧高取邸プレミアムワイン

旧高取邸にワイン貯蔵庫があったので、実際に唐津で作ったワインをそこに貯蔵しておいて、20年後にこのTeens KARATSUのメンバーが唐津に集まって来て、このプレミアムワインをみんなで飲めたら、楽しいだろうなあと思います。

活用案③旧高取邸「海の家」

旧高取邸は文化財なので敷地内に建物をつくれません。ですから敷地外に、海の家をつくれればもっと人が集まると思います。旧高取邸を見た後に海水浴ができれば、観光客の人たちも楽しい

と思います。そこに、当時の人たちが食べていたものと、今はやっている食べ物ものと売れば、時代の流れとか歴史とかがわかるし、当時はこんな食べ物食べていたんだあって感じるのも、楽しいと思います。

活用案④旧高取邸「お茶会」

旧高取邸で実際にやっていることです。が、茶室でお茶会をやればいいと思います。それも、月に1回ぐらいやれば、人も集まると思うし、もしできれば高取さんの奥さんが好きだったお茶とかも داشتたら、もっと楽しいと思います。

活用案⑤能舞台でやるプチコンサート

能舞台でプチコンサートをやれば盛り上がると思います。

活用案⑥大広間で「高取伊好」を学ぶ

2階大広間で高取さんについて学べば、もっと旧高取邸に興味をもつ人たちが増えて、今記録が残っていない旧高取邸を建てた人たちがわかるかもしれません。それに小・中学生が社会科見学などで来るようになれば、それだけで勉強になると思います。

20年後の旧高取邸は、もっとみんなの旧高取邸になってほしいです。洋間で結婚式をする案などが実現していたらいいなあと思います。

そして20年後にはもっとみんなが旧高取邸を知って、唐津が活性化していったらいいと思います。旧高取邸を深く知ること唐津に対する愛着がわいてきます。唐津に愛着をもつことで、唐津をもっと元気にしようという気持ちをもちたいと思います。



風景は唐津の人の足跡

唐津の中心市街地は、昔城下町だった頃の雰囲気を感じさせる歴史的な町です。今回その町並みをあらためて見てみて、ぜひ未来に残していきたいと思いました。なぜなら、この風景が唐津というひとつの城下町をかたちづくっていると感じるからです。また、石垣のお陰で城下町だったということがよりわかりやすくなるし、商店街は町人が商売をして栄えていた頃の様子を思い浮かべれます。古い建物からは時間の流れが伝わってきますし、家々にある生垣や昔ながらのものには、昔の人びとの生活とその面影が感じられ

り楽しむことができるのだ、と初めて気づきました。

現在は、そんな素晴らしい町並みが少し減ってきています。百瀬さんにたずねてみたところ、「古い家は住みにくいから、みんな建て替えてしまっただよ」と答えてくれました。家を建て替えるのは仕方のないことだけれど、そうすると、唐津の「におい」が薄くなってしまう。

将来に町並みを残す方法

そこで、町並み残すための方法を考えてみました。

まず、家を建て替える時のことです。僕が考えたのは、その際にできるだけ外観を損ねないようにすることです。内装だけ変えてもらったり、大幅に変わる時は瓦屋根にしてもらったり、格子をつけてもらうなどすれば外観を保てると思います。それに少しお金がかかるのならば、足りない分は募金をもらい、それでも足りない分は市からある程度だすようにすれば、大丈夫だと思います。保存の対象になる家は、ある程度古いもの、なくなるとその周辺の町並みに支障がでるものとして、必要な項目の基準を設定すればよいのではと考えます。

次に考えたことは、市民や観光客に町並みのよさを知ってもらうためのイベントなどです。町並みのことを、その町の歴史、今と昔の違いなどから学んでもらおうと思いました。唐津の歴史とつなげて考えてみるのも面白いかもしれません。学んでもらう時は、クイズ形式にするなど、もっと知りたく



▶唐津のにおいを感じさせる町田川にかかる千鳥橋
▼大石町の狭い道路を通る迫力のある曳山「七宝丸」



唐津が城下町だったことを思い浮かばせる石垣



船宮町の宮島醤油工場



町のあちこちにある恵比寿さま



大石町の町並みと古い家



ます。これらの風景が、唐津をおわせている、つまりこの町らしさを醸しだしていると思うのです。

さらに、僕がこの町並みを未来へ残そうと思ったのは、少し別の理由があります。

この町は唐津の歩みにともなうて変化してきました。そして、その変化は偉人たちの功績でもあり、なにより唐津の人たちの功績、頑張りでもあります。つまり、この町は今まで唐津の人間がやってきたことの足跡、大きな遺跡のようなものなのです。だから、それは唐津市民全員の力を合わせて残していくべきモノだと思いました。

曳山を引き立てる狭い道

僕は、今回改めて大石町と水主町^{かこまち}、船宮町を訪れてみました。このあたりの町はまだ古い家が残っていて歴史を感じさせる町並みになっています。また、船宮町には120年余りの歴史をもつ宮島醤油の本社工場があります。工場の建物も90年の歴史がある、とても古い工場です。

僕はこのあたりを古い家がある町として認識していましたが、僕がインタビューしたこの通りに住む百瀬すえ子さんは、違うよさを教えてくれました。そのよさとは、百瀬さん曰く「狭い道を通るから、曳山が大きく見える」ということです。曳山はあまり大型のものではなく、遠くから見るとそれほど大きく見えません。ですが、狭い道を通ることにより、曳山を目の当たりにし、迫力がでるのです。その道との対比で、僕たちは「唐津くんち」を、よ

なるような要素を入れます。ガイドしてくれる方については、ボランティアの方がよいのですが、雇うのが一番でしょう。他にも町歩きマップを作成して、そこに町並みの説明を載せる、などを考えました。

僕がこれ考えたのは、なにかを残していくためにはたくさんの方の支持が必要だと思うからです。先にあげた募金についても、多くの人の支持があれば、それだけお金が集まります。世の中は忘れられたものからなくなるので、それも防げます。

発展しながら「におい」を残す

今まであげてきた意見は、残すための意見です。しかし、唐津は発展していかなければなりません。その時は今あるものから、そのもののアイデンティティを残しつつ発展すれば、唐津の「におい」は消えないと思います。20年後もその先も、唐津の観光客が「におい」を体に染みつかせて帰ってくれるのが、僕の願いです。

みなと

Teens KARATSU ♣ B班



この地域は、唐津市を代表する物流や水産業の拠点であり、地域の活力の向上に重要な役割を担う場所です。唐津市都市計画マスタープランでは、「みなとを核として人と物が交流しにぎわう『唐津みなとまち』の再生」をテーマに、国際観光貿易港としての人・物・情報の交流基地、観光・交流拠点を目指すとともに、水辺を身近に感じることができる遊歩道や拠点施設の整備、砂浜の保全、生物の育成・生息地の確保といった水環境の改善などが取り上げられています。

そこで中高生たちは、この地域が大陸との交流によって栄えた昔の唐津のように、さまざまな国の人と文化が出会う唐津の玄関口となり、将来の利用が未定となっている火力発電所や佐志の埋立地などの場所を積極的に活用することで、にぎわいを生み出しながら、唐津港、西の浜、唐津の海が安全で美しく、そして人びとからもっと愛される場所となるための提案を行いました。

取材で出会った人びと A 班



吉富寛さん・弥生さん ●山内薬局
商店街のことをよくしゃべっていた
できました。もの知んな人でした。



山崎久美子さん ●大島邸を保存する会
大島邸のことが本当に好きで、ずっ
と大島邸を守りたいと思っている人
でした。ばっと見、学校の先生ぼかつ
たです。



正田俊輔さん
●正田バイク屋さん（正田商会）
とても気さくでおもしろくて優しい
方でした。人とのつながりをとても
大切にされていました。



木下修一さん ●まいづるグループ社長
ぼくたちに親切に接してくれ、よく
話してくれました。



森正俊さん ●いきいき唐津
短い時間ながら、難しい話を簡単に
わかりやすく話してくれました。



松尾武彦さん ●松尾印刷社長
以前大島邸を管理していて、建物の
状況・経過を詳しく把握されていま
した。



大河内はるみさん
●旅館「洋々閣」おかみ
印象は、思ったより若い人だと思い
ました。旧高取邸の話を詳しく教え
てもらいました。



百瀬すえ子さん ●水主町住民
水主町の元・丸幸金物店に住んで
いる方。優しくて元気のある人です。
40年くらい前にここへお嫁にきてい
て、昔のことや今のことを聞かせても
らいました。



木本聖さん ●他県から来た唐津の新住民
いろいろ考えて、気さくに唐津のよ
いところと不便なところを話してく
れました。